

事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称 施策Ⅱ-5-3
地域生活交通の確保

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 交通対策課長 田中 浩史 電話番号 0852-22-5898

| | | |
|---------|--|--------------------------------------|
| 事務事業の名称 | 隠岐航路運航維持事業 | |
| 目的 | (1) 対象 | 隠岐航路を利用する県民等 |
| | (2) 意図 | 隠岐本土、島前島後、島前内の安定した運航と利用しやすいダイヤを確保する。 |
| 事業概要 | 隠岐島民の生活を支える隠岐の海上交通確保を図るため、船舶の導入（隠岐広域連合の「フェリーおき」の買取り及びジェットフォイルの整備、島前町村組合の内航船「フェリーどうぜん」、「いそかぜ」、「いそかぜⅡ」の建造）、船舶の運航（超高速船「レインボージェット」及び島前内航船「いそかぜ」）及び航路運賃低廉化に要した経費の一部を支援する。 | |

2. 成果参考指標

| 成果参考指標名等 | | 年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 単位 |
|----------|--------------------------|-------|------|------|------|------|------|----|
| 1 | 指標名 隠岐航路全体の就航率 | 目標値 | | 96.0 | 96.0 | 96.0 | 96.0 | % |
| | | 取組目標値 | | | | | | |
| | 式・定義 隠岐航路の就航便数/隠岐航路の計画便数 | 実績値 | 94.5 | 93.9 | | | | |
| | | 達成率 | - | 97.9 | - | - | - | % |
| 2 | 指標名 隠岐航路利用者数 | 目標値 | | 44.3 | 44.5 | 44.8 | 45.0 | 万人 |
| | | 取組目標値 | | | | | | |
| | 式・定義 隠岐航路利用者数 | 実績値 | 44.1 | 41.9 | | | | |
| | | 達成率 | - | 94.6 | - | - | - | % |

3. 事業費

| | 前年度実績 | 今年度計画 |
|-------------|---------|---------|
| 事業費(b) (千円) | 145,829 | 417,860 |
| うち一般財源 (千円) | 145,829 | 243,133 |

4. 改善策の実施状況

| | |
|---------------------|------------------------|
| 前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況 | ②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む） |
|---------------------|------------------------|

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・平成28年度の隠岐航路全体の就航率は93.9%と前年度（94.5%）を下回った。
 ・平成28年度の隠岐航路の利用者数は418,965人と前年度（441,009人）を下回った。
 ・隠岐広域連合が所有する「フェリーおき」及び超高速船「レインボージェット」については、前期に引き続き隠岐汽船を指定管理者に指定。平成28年度からの4年間を第2期指定管理期間として運航を継続中。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・平成26年3月から就航した超高速船「レインボージェット」は、耐波性に優れ、前身の「レインボー2」に比べ就航率が向上。島民を始めとする利用者の利便性向上に大きく寄与している。
 ・今期のフェリーおき及び超高速船の指定管理にあたり、隠岐汽船社内において「サービス改善委員会」を設置。平成28年度は、苦情・サービス改善提案とそれに対する回答をフェリーのりば等に掲示、また、他社研修等が実施された。
 ・国の平成29年度予算において「特定有人国境離島地域社会維持推進交付金」が新たに措置され、当該交付金の活用により隠岐航路運賃のJ/R並みへの引き下げが可能となった。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

・隠岐航路の維持のためには、運航事業者の経営安定が不可欠であるが、収支を左右する燃油価格の動向は先行きが不透明であることに加え、隠岐航路の利用者数は平成10年度のピーク時より大きく減少している。
 ・ジェットフォイルの就航に合わせて、クレジットカード決済や外国語表記等を導入したが、隠岐汽船のサービス向上を求める利用者の声は多い。

②困っている状況が発生している「原因」

・隠岐汽船社内において、利用者など外部の方の意見を聞く機会が少なく、利用者ニーズを取り込めない状況となっている。

③原因を解消するための「課題」

・平成28年度からの第2期指定管理業務開始に合わせ、更なるサービス水準の向上に向けて、隠岐汽船社内に利用者代表など3名の外部委員を含めて構成される「サービス改善委員会」が設置され、検討が進められている。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・隠岐汽船におけるサービス改善の取組みが継続されるよう、指定管理評価委員会による検証等を通じ、引き続き同社に働きかけていく。